



当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 22 年 1 月 27 日
東京文化発信プロジェクト室
(財団法人東京都歴史文化財団)

今月のテーマ ＊子供



『パフォーマンスキッズ・トーキョー』共催団体代表に聞く

アートとの出会いが拓く子供たちの可能性

ダンス、演劇、音楽などのプロのアーティストがホールや小学校を訪れ、子供たちとオリジナルの舞台作品を創り上げる「パフォーマンスキッズ・トーキョー」。共催団体代表の堤 康彦さんにお話を伺いました。

舞台づくりが子供たちを変える

——具体的な活動内容、その特色をお聞かせください。

堤 プロのアーティストを都内のホールや公立小学校に派遣し、子供たちとの10日間程度のワークショップからオリジナルの舞台作品を創り上げ、観客の前で発表する。これが基本的な流れです。今年度は、昨年7月から今年3月までの間に16ヶ所で開催しています。特色は、アーティストと子供たちが一体になってオリジナル作品創りに挑戦すること。アーティストは既存の脚本や振り付けを一方向的に教えるのではなく、子供たちとふれ合い、一緒に身体を動かしながら表現や多様性を引き出し、クオリティーの高いオリジナルのパフォーマンス作品に創り上げていきます。

——活動の目的、役割をどうお考えですか？

堤 “アーティスト”という、学校では異質の存在が、いつもと違う授業を行うことで、子供たちのものの見方に揺さぶりをかけたい。舞台作品を創るには、子供たちが一人ひとりの違いを認め合い、生かし合うことが求められます。全員で力を合わせて一つの作品に創り上げていく中で、子供たちは、みんなそれぞれ違っていいんだというふうに気づき、だから自分はこれでいいんだという“自己肯定感”を抱けるようになります。自分が自分であること

に自信を持つことは、自分を認識すると同時に他者理解につながり、お互いを認め合う豊かな人間関係が育めるようにもなる。そんな流れのきっかけづくりができればと考えています。

——アートの持つ力のすごさを感じられたことは？

堤 今、多くの小学校では、授業にうまく参加できない、コミュニケーションがとりにくいなどの、特別な支援を必要とする軽度発達障害、もしくはその傾向のある子供たちがいます。当初は“舞台に立つのは無理”と言われていた子が、ワークショップで、アーティストが個々のもっている感性を認めて生かしていくことにより、目を見張るような活躍をしてくれるのです。そうになると、他の子供たちの彼らを見る目も変わります。そして、最後にはしっかりと舞台を務めて先生を大喜びさせた子もいました。

——東京文化発信プロジェクトとして行う意義は？

堤 NPO法人「芸術家と子どもたち」でも10年ほど前から学校にアーティストを派遣する活動を続けています。しかし、『パフォーマンスキッズ・トーキョー』で行っているような子供や学校の先生との密度の濃い関係づくりや、ダイナミックな展開は、やはり都のプロジェクトであればこそかなうもの。今後もより多くの子供たちと出会えるよう、活動を広げていきたいと願っています。



つみ やすひこ
堤 康彦
『パフォーマンスキッズ・トーキョー』
共催団体
NPO 法人「芸術家と子どもたち」代表

今後の予定

- 「からだのキモチ」
3月7日(日) 東京芸術劇場小ホール2 15時開演
- 「からだからものがたり? ものがたりからからだ? ~からだで語る物語~」
3月30日(火) 保谷こもれびホール小ホール 18時開演
共に入場無料 ※事前予約制
詳細はhttp://www.bh-project.jp/festival/jpn/event/data/kids_tokyo2009



『パフォーマンスキッズ・トーキョー』アーティストに聞く

子供たちと共に考え、生み出していく舞台

昨年、ホールと小学校でワークショップを行った港 大尋さんに伺いました。

——昨年は第一生命ホール（7月）と、東村山市立回田小学校（10～11月）の2ヶ所で舞台作品を作っておられますね。

港 2003年頃から「芸術家と子どもたち」の活動に加わっていたことからパフォーマンスキッズ・トーキョーにも参加しました。第一生命ホールでは公募した小学生たちと、「ハーメルンの笛吹き男」伝説をテーマにした「The Pied Piper of Hamelin」を発表しました。振り付けはダンサーの森下真樹さん。子供たちにはまず、この奇妙な話にはどんな意味があるのか、「物語」とは一体何なのかといったことを考えてもらいました。一方で笛や打楽器などのリズムを聞いてもらいながら、音楽やダンスを共有していく。振り付けや音楽を一方的に与えるのではなく、一緒にじっくりと考えながら舞台をつくっていくことで、子供たち自身のある種の「リアリティ」を引き出すことができたかもしれません。

——小学校のほうは、どのような内容ですか？

港 回田小学校の3年生全員を対象に、10日間のワークショップをしながら、20分ほどの作品を学校の芸術祭で発表しました。こちらは地元には伝わる河童の民話とネイティブ・アメリカンをテーマにしました。題して「タイコをたたこう！～動物の教え～」。本物のヤギの皮で太鼓を作り、近隣の牧場へ牛を見学しに行くなど、子供たち一人ひとりに人間と動物、自然の関わり方を考えてもらいながら、歌や群読※、ダンスなどを盛り込んだステージを作り上げていきました。

——実施する内容はその都度、違うのですね。

港 そこでしかできないストーリーや歌を大切にしたいですね。回田小学校では歌詞や踊りも皆で一緒に作りました。音楽や芝居は時として、子供たちの底にある力を引き出してくれます。練習するうち、普段は叱られてばかりの子が素晴らしい演技を見せることも。芸術祭の後、市の音楽祭でも発表したのですが、その頃にはアドリブもできるようになっていて、それぞれが“パフォーマー”と言えるほどでした。

——子供たちには、この体験を通してどんなことを身につけて欲しいですか？

港 今の時代、テレビやコンピュータといったヴァーチャルなメディアが、当たり前のように、それが自明であるかのように身近に存在しています。でも子供たちには、そういうものにとらわれず、むしろ疑いをもってほしい。音楽やダンスを通じて、身体のリアリティに目を向けてほしい。今後も子供たちとの活動の中で、そんな問いかけを続けていきたいですね。

※「群読」

集団で詩やテキストを朗読すること。



みなとおひろ
港 大尋

作曲・作詞家、ミュージシャン。バンド「ソシエテ・コントロール・レタ」の活動の他、詩人やダンサーとのコラボレーションや、劇音楽の作曲なども多数。サディスティック・ミカ・バンドにゲスト参加も。最新CDに「声とギター」。



「タイコをたたこう！～動物の教え～」を実施した 回田小学校・曾我部 多美校長にきく

感動体験から“表現力”を高めた子供たち

子供たちがプロから直接学べる。——昨年初めに『パフォーマンスキッズ・トーキョー』の開催校募集の知らせを聞いて、迷わず当校も手を挙げました。以前赴任していた小学校でもやはりその道のプロから子供たちが学ぶ学習を実施し、子供たちの感性が豊かになるなどとてもいい影響を感じたからです。

今回は、表現する楽しみを味わうというねらいで、3年生を対象とし、2クラス60人が2ヶ月間のワークショップに取り組みました。

担任は、昨年半年頃前から港さんと内容の打ち合わせを開始。港さんのプランでは単に音楽演奏をするだけではなく、その背景にある文化や自然、命の大切さなども感じてもらいたいというものでした。

子供たちがピアノ伴奏に合わせて歌と手拍子のリズム練習をしている授業の様子を何度か見ましたが、港さんが鍵盤に指を下ろ

した瞬間、教室の空気が変わるんです。子供たちは一瞬で引き締まり、歌に引き込まれていきます。やはりプロの方は空気の生み出し方や演出力が素晴らしいですね。そして、牧場の見学や、子供たちのリズム感や、表現力を高めるための太鼓作りもよかったです。ヤギの皮をはったのですが、子供の力だけでは難しく、たくさんの応援があってできあがりました。音は最高です。手づくりですから。

発表会「タイコをたたこう！～動物の教え～」では、カップ組とインディアン組に分かれ、港さんが子供たちの言葉で作ったオリジナル曲を披露。動物になりきって歌ったり、太鼓でリズムを刻んだり…。本当に生き生きした発表会になりました。

体験を通じて“子供たちが変わる”事こそが教育の原点。今回の取り組みで、子供たちは様々な感動体験から“表現力”を高めていったのだと思います。



東京の外国人が見る“東京文化”

日本とも共通点のあるインド流の子育て

家族と一緒にインドから来日して17年。今では日本語もすっかり板についているボンケシュ・パンデさんは、北インド料理レストランのオーナーです。
長年日本で暮らしてきたパンデさんに、現在は高校3年生というお嬢さんとの日本の生活について伺いました。



Byomkesh Pandey
ボンケシュ・パンデ

1960年インド・カルカッタ生まれ。ニューデリーの高級ホテルで13年間マネージャーを務めた後、92年に来日。レストラン勤務を経て、07年に広尾で北インド料理レストラン「Priya (プリア)」を開店。

インド生まれ、日本育ちの一人娘

私が妻と娘を連れて来日したのは、今から17年前です。それまでは、インドのニューデリーにあるタージマハルホテルでマネージャーをしていました。あるとき、ホテル勤務の経験を見込まれ、日本のインド料理レストランに誘われたのが来日のきっかけです。日本語もわからないままに、六本木の「ラージマハル」で店長として働き始めました。場所柄、外国人客が多く、英語での接客には困りませんでした。やはり日本人客への対応には日本語が必要なので、お客さんとのコミュニケーションを通じて日本語を独学しました。そして一昨年、念願だった自分のレストラン「Priya (プリア)」をオープン。プリアはインドの言葉で「愛、愛する人」という意味で、娘の名前でもあります。

インド生まれ、日本育ちのプリアは、現在高校3年生。今は大学進学を目指す受験生です。来日当時は1歳半でしたので、少し大きくなると保育園へ預け、その後は小学校、中学、高校とインターナショナルスクールに通わせました。就学途中でインドに帰国することになった場合でも語学で苦労しないように、英語を身につけさせたかったからです。今では日本語と英語、ヒンディー語、ベンガル語を話すことができ、家族との会話も英語と日本語のミックスです。

強い家族の絆。 子供の躰を大切に

一般的に言うと、インドと日本の子育ては似てい

ると思います。どちらも子供を大切に扱いますよね。例えば子供を叱る時でも、声を荒げるのではなく、優しくなだめるように注意する機会が多いです。

我が家では、勉強は学校に任せますが、躰は妻や私が徹底して行います。大人になるまで躰けるとい方針なので、あれをやってはいけない、こういったことには気をつけなさい、と妻が細かく言い聞かせています。私も時々注意すると、「もうパパはイヤ」と言われますが(笑)。

インドでは、20歳=成人という年齢での区切りがなく、結婚するまで家族と暮らすのが一般的なので、結婚前の子供には親の躰が続きます。その分、家族の絆も強い。日本では18歳くらいで親元を離れる人も多いですが、もう少し親と暮らしてもいいのではないかと思います。

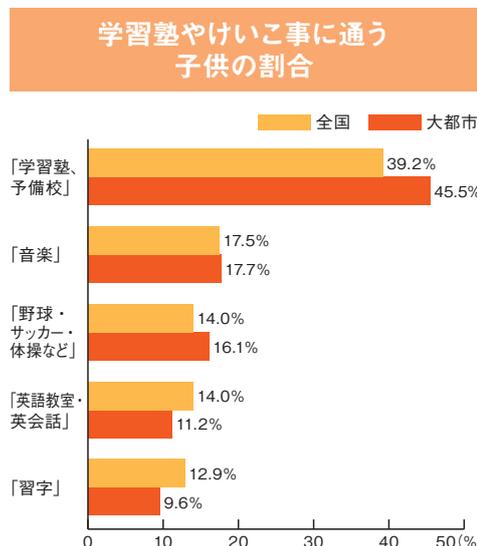
また、インドでは比較的はっきりと物を言いますが、日本では人とのコミュニケーションに細やかな気遣いをしますね。娘がそうした日本の良い部分を見て育ったことがうれしいです。

データで読み解く “東京文化”



—子供たちの習い事編—

出典：内閣府「青少年育成ホームページ」平成19年「低年齢少年の生活と意識に関する調査」より
<http://www.8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei2/zenbun/index.html>
第II部第1章第3節8『学習塾やけいこ事』
第IV部資料編集計表(青少年)



今、子供たちは、どのくらいの割合で学習塾やけいこ事に通っているのだろうか。内閣府が全国の小学4年生から中学3年生の男女2,143人の回答をまとめたデータ「低年齢少年の生活と意識に関する調査」では、左記のような結果に。

同調査では、東京都区分を含む大都市の数値も紹介しているが、全国、大都市ともに最も高い「学習塾、予備校」の割合は、全国平均よりも大都市の方が6.3ポイントも高く、教育全体における学習面への関心がより高まっていることが伺える。また、かつて子供の習い事の代表格だった「習字」は、大都市よりも全国平均の方が3.3ポイント高く、現在は地方の方がいくぶん関心が高いようだ。

その他のけいこ事としては、「水泳」(全国 9.9%、大都市 9.6%)、「柔道・剣道・空手など」(全国 5.0%、大都市 4.9%)、「そろばん」(全国 4.7%、大都市 3.5%)、「バレエ、ダンス」(全国 3.5%、大都市 4.2%)などがある。

EVENT A La Carte

イベントアラカルト

東京文化発信プロジェクトの事業で、今後注目したいイベント、開催された公演のレポートなどを、本コーナーでご紹介いたします。

注目の イベント

イザ!カエルキャラバン!in東京

墨田区で、ユニークな防災ワークショップ開催!

「イザ!カエルキャラバン!」は、子供や若いファミリー層を対象に、震災時に必要な知識や技を身につけてもらうための、新しいタイプの防災アートプログラム。5年前に神戸市主催の震災10周年記念事業として始まり、今までに横浜、新潟などで開催されてきました。

昨年10月4日(日)、『東京アートポイント計画』の一環として、墨田区寺島で「イザ!カエルキャラバン!in東京 vol.1—寺島」が、実施されました。

「地域には、その地域ならではの防災の“作法”があります。墨田区でも学校やエリアで独自に防災訓練を行っている団体が活動していますが、東京は他の都市

に比べ、防災意識が高いと感じました」と、主催者であるNPO法人プラス・アーツ代表の永田宏和さん。

当日は「水消火器でのあてゲーム」「毛布担架タイムトライアル」などの防災ワークショップを実施。参加するごとにポイントがたまるユニークなシステムで、会場は約150人の子供と保護者で賑わいました。3月5日(金)には、シンポジウム“学びあい、ともに伸ばそう「地域の防災力」”を開催します。

「今後は、さらに地域の方々との交流を深めながら、学びの場となるような活動をしていければと思っています」(永田さん)。



写真提供/特定非営利活動法人プラス・アーツ

公演 レビュー

ミュージック&リズムス TOKYO KIDS

約300人の子供たちが 手作り楽器で発表コンサート

子供たちが自分の手で楽器をつくり、音楽を創り出す『ミュージック&リズムス TOKYO KIDS』。プロの演奏家の指導のもと、ワークショップを通じて楽器作りや合奏練習に取り組んできた子供たちの発表コンサートが、昨年11月1日(日)に東京都庁前 都民広場で開催されました。

子供たちは、赤、青、緑、黄、白のTシャツとバンダナのグループで参加、自作の「竹」の楽器を小さく叩いたり、激しく鳴らしたりと叩き方の違いで多彩なリズムを表現しました。ワールドミュージックの演奏家たち、沖縄音楽の伝統芸能「エイサー」、韓国の伝統楽器を用いて演奏する「サムルノリ」、西アフリカ・セネガルの音楽なども次々と演奏され、世界各地の音楽と子供たちの竹楽器による合奏が広場に響き渡り、一緒になって演奏し踊り歌う楽しいコンサートになりました。参加した子供たちも、「おもしろかった」と満足そうでした。



アーティスト・イン・児童館

“日常”から生まれる 新しいコミュニケーション

キッズ体験 レポート

児童館にアーティストを招聘するプログラム『アーティスト・イン・児童館』。昨年11月からは、新プロジェクト「児童館の新任住民史」がスタート。アーティストの北澤潤さんと3名のメンバーが、「新任住民」として練馬区立東大泉児童館に滞在しています。

児童館は、元気な小学生でいっぱい。子供たちと新任住民が一緒に過ごす日常のなかで起こった出来事が、絵日記のような「手記」として書き留められ、児童館内のあちこちの壁に貼られています。「それぞれの手記は、書かれていることが起こった場所に貼られています。新任住民が最初に書き始め、今は子供たちも書いてくれるようになりました。時間を共有し、共に書き留めることで新しいコミュニケーションが生まれています」と北澤さん。



プロジェクトは、週刊『児童館の新任住民史』としてもまとめられ、地域の学校や商店街にも配布されています。

東京文化発信プロジェクト 子供向け事業一覧（平成21年度）

東京文化発信プロジェクトでは、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的に、様々な子供向けの体験プログラムを展開しています。本物の芸術文化と触れ合ったり、芸術家から直接指導を受けるワークショップなど、平成21年度に実施している子供向けの9事業をご紹介します。

東京発・伝統WA感動 (8～11月)

普段あまり伝統芸能に接する機会のない方や、子供たちにも楽しめるように工夫を凝らした公演を開催。日本の音である邦楽器と声を体験する「邦楽入門コンサート」や、「親子でふれあう日本舞踊」などを実施しました。



特別イベント「親子でふれあう日本舞踊」

東京大茶会2009 (10月)

浜離宮恩賜庭園と江戸東京たてもの園で行われた、和のこころ、茶のこころを感じる平成の大茶会。2会場各2日間の開催期間中、親子で参加できる茶道教室「子供茶道体験」を実施しました。



キッズ伝統芸能体験 (8～3月)

能楽、日本舞踊、箏曲、長唄三味線の一流の芸術家が子供たちに直接指導。8か月にわたるお稽古を積み重ね、今年3月22日（月・祝）宝生能楽堂、29日（月）国立劇場大劇場で、発表会を開催します。



パフォーマンスキッズ・ トーキョー（通年）

ダンス・演劇・音楽のプロのアーティストをホールや学校に派遣し、ワークショップを行い、子供たちが主役の舞台作品を創り上げます。今年度は、16か所で実施。3月には、7日（日）東京芸術劇場、30日（火）保谷こもれびホールで発表公演を開催します。



ミュージック&リズムス TOKYO KIDS（9～11月）

鬼太鼓座など世界で活躍する演奏家たちの指導のもと、自然の中で竹を使った楽器を自分たちの手で作り、音楽を創り出すワークショップ。フィナーレとして、東京都庁前 都民広場で発表コンサートを開催しました。



青少年のための舞台 芸術体験プログラム（通年）

東京文化会館で行われる国内外トップレベルのオペラ、バレエ、オーケストラなどの公演のゲネプロ（最終リハーサル）を、将来、音楽家や舞台芸術家などをめざす青少年に公開。舞台芸術に直接触れる機会を提供しています。



東京文化会館 大ホール

Meet the Kids (通年)

東京芸術劇場アトリウムを会場に、舞台芸術を身近に感じてもらえるよう、子供たちの発表や子供向けのワークショップを行い、子供とアートとの出会いの場を提供しています。



アーティスト・イン・ 児童館（通年）

「東京アートポイント計画」の一環で実施されている、児童館をアーティストの「作業場」として活用してもらうプログラム。アーティストの創作・表現と子供たちの遊びが一体となった活動が展開されています。



イザ!カエルキャラバン! in 東京（10～3月）

楽しみながら防災が学べる防災アートプログラム。住民や協力団体をつなぎながら、東京ならではの新しい防災訓練および地域コミュニティのあり方を模索。「東京アートポイント計画」の一環として開催されています。



1月～3月 主な事業スケジュール

	東京ならではの芸術文化の創造・発信	芸術文化を通じた子供たちの育成
1月	<p>井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト ～3月28日(日) 東京都現代美術館 エントランス</p>	
2月	<p>第2回 恵比寿映像祭 19日(金)～28日(日) 東京都写真美術館、 恵比寿ガーデンプレイス センター広場 ほか</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 16日(火) 東京二期会オペラ「オテロ」ゲネプロ公開 東京文化会館</p> <p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 25日(木) 東京バレエ団「シルヴィア」ゲネプロ公開 東京文化会館</p>
3月	<p>芸術監督セレクション「農業少女」 1日(月)～31日(水) 東京芸術劇場</p> <p>学生とアーティストによるアート交流プログラム成果報告会 14日(日) 参加プロジェクト報告&シンポジウム 学習院女子大学 やわらぎホール</p> <p>六本木アートナイト 2010 27日(土)～28日(日) 六本木ヒルズ、 東京ミッドタウン、国立新美術館、サントリー美術館、 森美術館、21_21 DESIGN SIGHT、六本木商店街、 その他六本木地区の協力施設や公共スペース</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 2日(火) ニーナ・アナニアシヴィリ&グルジア 国立バレエ「ジゼル」ゲネプロ公開/東京文化会館</p> <p>パフォーマンスキッズ・トーキョー in 東京芸術劇場 7日(日) 発表公演/東京芸術劇場小ホール2</p> <p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 17日(水) パリ・オペラ座バレエ団「ジゼル」 ゲネプロ公開/東京文化会館</p> <p>キッズ伝統芸能体験 22日(月・祝) 発表会〔能楽〕/宝生能楽堂</p> <p>キッズ伝統芸能体験 29日(月) 発表会〔日本舞踊/箏曲/長唄三味線〕 国立劇場大劇場</p> <p>パフォーマンスキッズ・トーキョー in 保谷こもれびホール 30日(火) 発表公演/保谷こもれびホール 小ホール</p>

東京アートポイント計画 <http://www.bh-project.jp/artpoint>

東京アートポイント計画とは

東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指しています。まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、川や防災などをテーマとしたプログラム、アートで人・まち・活動を結ぶための人材育成プログラムなどを展開しています。

アートプログラム

LIFE ON BOARD TOKYO 09-10

2月7日(日) トークイベント「水辺をひらく アートでひらく」
TYハーバー WATERLINE Floating Lounge

3月13日(土) 浜離宮・芝浦・古川クルーズ
浜離宮(中央区)周辺のエリアを親水性の高い40人乗りのZENFLEET船で巡ります。

3月22日(月・祝) 水上マーケット「グラッとバザール」(仮称)
東京海洋大学港南キャンパス棧橋など

イザ!カエルキャラバン! in 東京

3月5日(金) シンポジウム
学びあい、ともに伸ばそう「地域の防災力」～都内の先進事例と座談会～
アーツ千代田3331

Insideout / Tokyo Project

3月20日(土)～3月22日(月・祝)
東京と地域を結ぶ活動を行っている団体のリーダー等による、「東京一地方」
関係の再構築をめざした公開プレゼンテーション&ディスカッション
アーツ千代田3331

TERATOTERAリレートーク(定期開催)

地域で活動を行う各アートのディレクターによるトークイベントやワークショップ
2月21日(日)
TERATOTERAリレートークvol.00
説明会 Art Center Ongoing/懇談会 いせや吉祥寺店

3月21日(日)、3月22日(月・祝)
TERATOTERAリレートークvol.01「TERATOTERAコアナイト」(仮称)
シンポジウム、パフォーマンス、音楽ライブ、映像作品の上映など
会場:未定(杉並区・武蔵野エリアのライブハウス等を予定)

人材育成プログラム

レクチャー・シリーズ「Tokyo Art School」

2月20日(土)「共生のための環境へ」
藤 浩志(美術家)×飯島 博(NPO法人アサザ基金 代表理事)/ノルサイドプラザ

3月13日(土)「テクノロジー・情報・身体」
藤高 晃右(Tokyo Art Beat・NY Art Beat共同設立者)×
ドミニク・チェン(NPO法人クリエイティブ・commons・ジャパン理事/
株式会社ディヴィデュアル共同設立取締役)/アーツ千代田3331 体育館

インターン・プログラム「シッカイ屋」

3月27日(土)シッカイ屋 平成21年度成果報告会(仮称)
アーツ千代田3331 体育館

■ 東京文化発信プロジェクト 概要 ■

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

アーティストと市民による創造的な活動とその成果の発信を通じて、東京が「文化芸術創造都市」であることを、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。

実施運営の統括は、財団法人東京都歴史文化財団の東京文化発信プロジェクト室が行っています。

東京文化発信プロジェクトは、東京都の「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年度策定)への実行プログラムとして改定された「『10年後の東京』への実行プログラム2009」(平成20年度12月策定)における、目標6「都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する」、施策32「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」の指定で、重点的に実施されています。

報道関係の方々へ

「東京文化発信プロジェクト広報事務局」を開設しました。
さまざまな切り口のプレスニュースレターを毎月発行し、
プロジェクトや各事業について情報提供をさせていただきます。
お気軽にお問合せいただきたく、よろしく願いいたします。

<報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原
電話：03-3818-2465 FAX：03-5689-0455
E-mail:tokyobunka@prinfo.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8-11F

※プレスニュースレターは、下記からダウンロードすることができます。
<http://www.bh-project.jp/festival/jpn/pressnews/>

次号 (vol.7) の予告
特集テーマ：「人・体験」
3月上旬に発行予定の次号は、
年度末のため、2月・3月の合併
号として、人や体験を切り口に、
当プロジェクトを紹介します。